

「描こう！語ろう！始めよう！高校生の未来フォーラム」結果概要

日時：令和6年2月17日（土）13：00～17：15

場所：南あわじ市広田地区公民館

参加者：発表参加者 25 名（洲本高校 3 名、洲本実業高校 3 名、淡路三原高校 8 名、津名高校 8 名、淡路高校 3 名）、学校関係者・一般参加者 20 名
株式会社シカケ代表取締役 金山氏
神戸大学教授 伊藤氏、神戸大学生 藤本氏
南あわじ市教育委員会学ぶ楽しさ支援センター 大本氏
認定 NPO 法人ソーシャルデザインセンター淡路 木田氏、浜田氏、黒田氏
事務局 3 名（富永班長、和田、正司）

内 容

（1）アイスブレイク 神戸大学サイエンスショップ （30分）

神戸大学の伊藤真之教授と神戸大学生の藤本氏進行の下、異なる学校の生徒とペアになって、興味のあることをテーマに話し合うアイスブレイクを行った。



（2）高校生による探究学習の発表 （120分）

発表7分、質疑応答10分を目安に行い、ステージをAとBの2つに分けて行った。ステージAは、進行を大本氏、コメンテーターを伊藤氏が行い、ステージBは、進行を浜田氏、コメンテーターを金山氏が行った。

淡路地域の課題についてそれぞれの視点から研究した内容を発表し、パワーポイント等を巧みに使用し、役割を持って発表する姿がみられた。

発表者以外の人には、その発表に対する質問と、発表でよかったポイントをポストイットに記入してもらい、模造紙に貼って全員に共有した。

ステージ A	ステージ B
「Art でつなぐ～地域・小中学生・高校生の心～」(淡路三原高校)	「このゴミ誰の?～三原川の調査から～」(淡路三原高校)
「Care for elderly people」(津名高校)	「Agriculture in Awaji」(津名高校)
「淡路島の公共交通の活性化」(洲本高校)	「非接触式の体温計は正確に測れるのか?」(洲本高校)
「幸福度が高いのはどんな人?」(淡路高校)	「淡路島の釣り場の問題について」(淡路高校)
「環境問題を若者の手で」(洲本実業高校)	「人の気持ち～信頼～」(淡路高校)



(3) 金山宏樹氏による講演 (60分)

南あわじ市出身で“道の駅再生請負人”として活躍する株式会社シカケ代表取締役の金山宏樹氏に島の先輩として講演いただいた。これまでの経験や課題解決の発想の着眼点などをお話いただき、取り組む上で大切にしていることや、これからの探究を続ける高校生にむけて熱いメッセージを送った。



(4) 閉会の挨拶 認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路 木田薫氏

高校生の皆さんからエネルギーをもらえたらと思って、このフォーラムを企画した。今日は、大人の皆さんが楽しそうに聞いている姿を見て、高校生は居てくれるだけでエネルギーをもらえるんだとつくづく感じた。高校生の皆さんが、もっと地域に出て、淡路島をもっと良くしていくような動きができれば楽しいだろうと思う。私自身もずっと高校生のフォーラムをやりたいと思って言い続けたら、それに共感してくれる人がいて、実現できた。シカケを作っていくことはすごくおもしろいこと。金山さんの講演で「本気でやっている」という言葉があった。小さいことでもいいので、高校生の皆さんも是非にか新しいことを始めてほしい。今日のアイスブレイクで、恥ずかしいと思いながらも、他の学校の生徒と話ができている。一人で考えるとできないことばかり考えるが、人に話すと広がりが出てくる。夢見て、語って、小さいことでいいから何か始めてみる。一人で不安なら3人いると始められる。今日がそのスタートの日になってくれることを祈っている。皆さん今日は本当にありがとうございました。

以上